



中国汶川地震区域の郊外型“農家樂”と新しい地理経済開発研究

Investigation and Research on Suburban Agritainment and New Geo-economic Development in Weihuan Earthquake Area of China

湖北武漢 華中科技大学汶川地震調査チーム 耿虹 教授/博導
博士：李彦群 龐克龍 修士：範在予

“農家樂”

“農家樂”：から食べることから遊ぶことへの観光経済

農家樂は都市住民に自然に戻り、自然に近づき、農業活動を体験する方法を提供する。また、田舎の自然や人文の景観環境に頼った農村観光サービス産業でもある。中国の農家樂は、主に四川省の成都都江堰で起きた。

初期の農家樂は農家料理を主な活動として取り上げ、観光客のニーズの変化に伴って、“農家樂”は漸次単一機能から食、住、行、遊、買、娛の複合機能に変わった。



郊外型“農家樂”

郊外型“農家樂”：都市と農村の組み合わせ

郊外型“農家樂”は：都市近郊地域の農村世帯は基本的な接待単位であり、都市住民を観光客の源泉とすることで、農業が特色であり、農事を体験し、農業と林業風景を観賞し、レジャーの農村宿泊観光活動。

観光客の源泉は近地の特性を持っているため、都市住民は消費力が強く、消費指数は高いため、郊外の“農家樂”は幅広い開発見通しを持ち、農村経済を効果的に促進することができる。



武汉新洲区巴徐村徐治塘



武汉江夏区五里界小朱湾

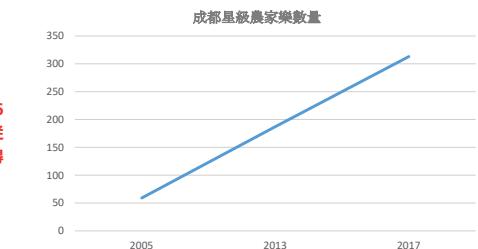
汶川地震区域の農家樂

汶川地震区域の“農家樂”開発のための良い基礎、地震発生前もう標準化された開発の段階に入った。

1986年に中国の初の農家樂が都原に開設され、成都農家樂が順調に発達し、発芽段階（1987-1991）と発達段階（1992-2002）を経て2002年に標準化開発段階に入った。2004年に「成都農家樂サービスの品質管理のための措置」と「農家樂観光サービスの品質の分類と評価」を公布し、59の星の農場を発表した。20の四つ星農家樂、29の三つ星農家樂、9つの二つ星農家樂、1つの一つ星農家樂がある。

2005年には、成都農家樂の政策と資金を支援するために、「成都農家樂サービスの品質管理の措置」と「成都農家樂の開放の基本的な条件」が公布され、また農家“莊園”改造プロジェクトでは、政府は各家屋の外壁に80-100元/m²の補助金を与えた。

不完全な統計によると、2005年末まで、**成都には5596人の農家樂経営者がいて、直接雇用者は約5.8万人、従業員は約29.3万人、訪問者数は2538.9万人、受取所得は7.3億元、関連産業が16.3億元の収益を実現した。**



5・12 汶川大地震

彭州市郊外の“農家楽”的被災状況



5・12 汶川大地震

救援活動に参加する

災后重建过渡安置规划指挥部
同舟共济 共渡难关



汶川地震区域の農家楽

汶川地震は、汶川地震区域の“農家楽”に多大な被害をもたらした。

自然資源に頼る農家楽に壊滅的な打撃

- ・自然資源に頼る農家楽
- ・龍門鎮銀廠溝

銀廠溝の美しい自然景観に頼り、銀廠溝地域の農家樂の数は2008年まで急速に増加した。2002年から2008年にかけて、農家樂の数は200余りから887に増加した。汶川地震による被害のため、2008年には銀廠溝の887戸の農家樂が全部損をした。自然資源の破壊のために、2017年までの銀廠溝地域の農家樂の200戸が回復したが、営業を開始したのが80戸しかなかった。

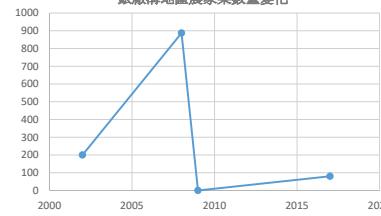
地震前



地震後



銀廠溝地区農家樂数量變化



汶川地震区域の農家楽

農業資源に依存する農家樂は、政策と援助資源の支援で、急速に発展している。

- ・農業資源に依存する農家樂
- ・汶川雁門鄉蘿蔔寨

2008年以前の雁門郷蘿蔔寨の住民は220余り戸1071人しかなく、トウモロコシと野菜に生きる。農家樂産業は発展せず、農民一人当たりの収入は約2000元。汶川地震の後、蘿蔭古村寨は破壊された。震災後に建設されたインフラの恩恵を受け、蘿蔭寨は農家樂とする農村観光の開発の結果、2017年に1人当たり所得は12000元に増加してきた。今、地元の羌族文化と“汶川三寶”などの農産物に依存し、80以上の農家樂を開設した。

地震後



再建後



	地震前	地震後
社会文化	世界最大かつ最古の黃泥羌寨、羌文化が主導、村人は地元の文化を十分に理解しておらず、外界とのコミュニケーションがうまくいかない。	村人は自分の文化とのアイデンティティ感が強く、観光客に対処し、健全な科学的社会管理体制を作り、民間伝承と言語の習慣を保持している。
経済産業	トウモロコシや唐辛子が主に植え付けられ、食べ物や衣服の問題しか解決できない。日常生活では、トウモロコシ、薪、ベーコンだけ。	米国の甘いチェリー、クリスピーな梅、アブリコットを導入し、“汶川三寶”を作成し、孔山大棗の地理標識を登録し、農産物の知名度を高める。
鎮、村のスタイル	黃泥夯土村寨、基本的にすべて破損	「古いものを修復する」という原則で、黄色いトウモロコシの杭と唐辛子の掛けの壁の羌寨特徴が復元される。
インフラ	水と電気は利用できなく、村人は夏に水を取り、冬に氷を取る。	援助建設のため、村は水、電気、そして完全なインフラにつながっています。

汶川地震区域の農家樂

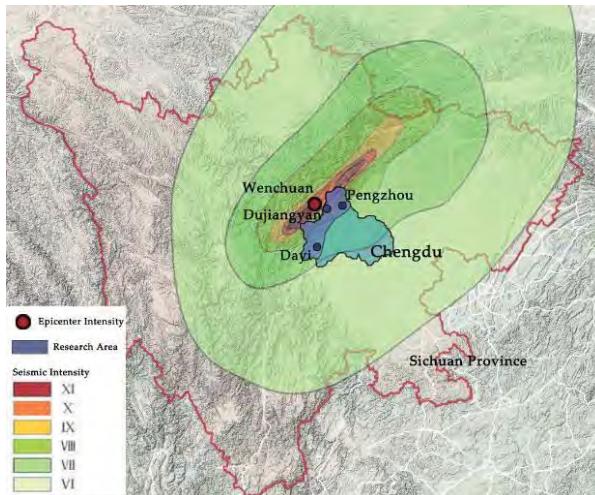
汶川地震区域の“農家樂”開発研究

調査エリア：成都市西部都江堰市、彭州市、大邑県3つの深刻な被害を受けた地域。

研究対象：郊外型“農家樂”

成都は、2003年に農村観光産業に焦点を当てた都市と農村統合プロジェクトを開始した。四川省政府の支援のもと、成都は大規模な農村観光産業を形成した。これに基づいて、農村観光サービス産業としての役割を果たし、多数の“農家樂”が導かれ、住民の“景民”への転換を促進する。

2016年に、成都は1.02億農村観光客を受け取った、260.91億元の農村観光収入を達成し、直接または間接的に200万人以上の都市と農村の住民の従業を果たし、彭青線農村観光市場の22%を占めた。



汶川地震区域の農家樂

郊外型“農家樂”が汶川地震区域の農村産業変容と開発の結果

地震後の国家や地方の復興、開発政策により、農村観光は汶川地震区域の発展の重要な支援産業となり、地震前の農村工コツーリズムに基づいて、汶川地震区域は、一般的に伝統的な農業と工業から農村観光業に変わった。

特に、成都市都江堰、彭州、大邑の3つの県では、政策の支援を受け、3つの観光ルートが徐々に形成され、毎年1500万人以上の観光客が訪れる。災害地域における農村経済の所得水準を大幅に改善し、農村住宅、施設、生態環境の建設のための良い基礎を築いた。

彭青線：郷村田園の旅（龍門山鎮）



郫都線：郷村美食の旅（徐家大院）



大邑線：郷村文化の旅（安仁博物館小鎮）



汶川地震区域の農家樂

郊外型“農家樂”が汶川地震区域の農村産業変容と開発の結果

郊外の“農家樂”は、農村観光で駆動され、レジャー、観賞、体験、宿泊、結婚式、美食、教育などの機能を統合した特別な観光サービス産業として徐々に浮上している。



彭州市通濟鎮万ムー花海農家樂



都江堰市瑞景灣結婚式農家樂

郊外の“農家樂”は農村住民の経済収入を改善し、震災による農村社会構造、産業構造、生態系構造も修復した。



都江堰市虹口鎮農家樂漂流



大邑縣新場鎮農家樂

汶川地震区域の農家樂

汶川地震区域の郊外型“農家樂”が地震後の農村復興に大きなプラス効果

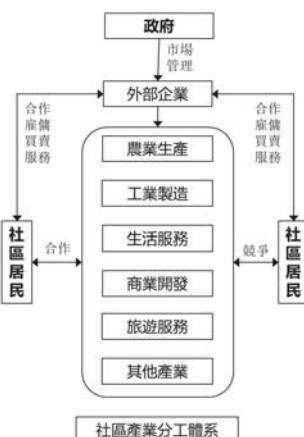
1. 新しい産業分業を形成し、農村の社会的ネットワークを修復する

典型的なケース：彭州市新興鎮海窩子古鎮

海窩子古鎮は彭州市新興鎮での地震後に元のサイトから再建されたコミュニティであり、歴史的な古い地区である。再建後、海窩子古鎮の住民たちは農家樂を共同して実行し、大規模で特徴的なブランドの観光産業を形成した。居住者はお互いを助け、新しい産業分業、良質な競争、相互利益を形成する。一度破裂した社会的ネットワークは、政府、企業、住民のもとで修復され、“新産業分業”的な社会関係サポートネットワークを形成した。



海窩子古鎮調査写真



“新産業分業”的な社会関係サポートネットワークモード

汶川地震区域の農家樂

汶川地震区域の郊外型“農家樂”が地震後の農村復興に大きなプラス効果

2. 新しいサービス産業クラスターを形成し、農業経済構造を効果的に修復する

典型的なケース：小魚洞鎮彭白路農家樂

小魚洞鎮は、彭州市の北部山間部に位置し、成都彭青線の農村観光の重要な郷鎮の一つであり、生態農業、特殊農産物加工、農村観光などを通じて住民の従業を支援している。

2015年には全市が年間100万人以上の観光客を迎え、最高峰の日に観光客が10万人に達し、観光収入は3000万元を超えた。住民たちが観光業を始め、2016年だけで162の新しい農家樂が開設され、合計300以上になった。農家樂の雇用者数は1300人を超え、鎮全体の雇用の37%を占めている。



汶川地震区域の農家樂



郊外型“農家樂”は新しい地理的経済形態、汶川地震区域の農村住民の経済収入を促進するとともに、農村社会、産業、生態的構造の回復と活性化を積極的に推進し、農村住民の“景民”と“新農民”への転換を促進した。

汶川地震区域の農家樂

汶川地震区域の郊外型“農家樂”が地震後の農村復興に大きなプラス効果

3. 元の生態的な景観の維持に注意し、農村の生態的構造を効果的に修復する

典型的なケース：都江堰市安龍鎮“林盤農家樂”

安龍鎮“林盤農家樂”は、川西の特色“林盤”住居形態を依存する農家樂であり、“林盤”内部の住居単元“農家樂”がサービスを提供し、周辺の農地や林業庭園などの自然生態景観が、“農家樂”的娯楽、観賞、体験などの農業活動を担う。

この開発モードでは、“林盤”内の住民の経済収入を高まるだけでなく、“林盤”的自然環境と生態的構造も回復した。



安仁鎮“林盤農家樂”調査写真

新しい地理的経済形態

郊外型“農家樂”が新しい地理的経済形態として、中国の異なる地域間には大きな違いがあるか？

郊外型“農家樂”が新しい地理的経済形態として、相違点を地域別に分析するため、西部、中部、東部の3地域で四川省、湖北省、浙江省を選んだ。

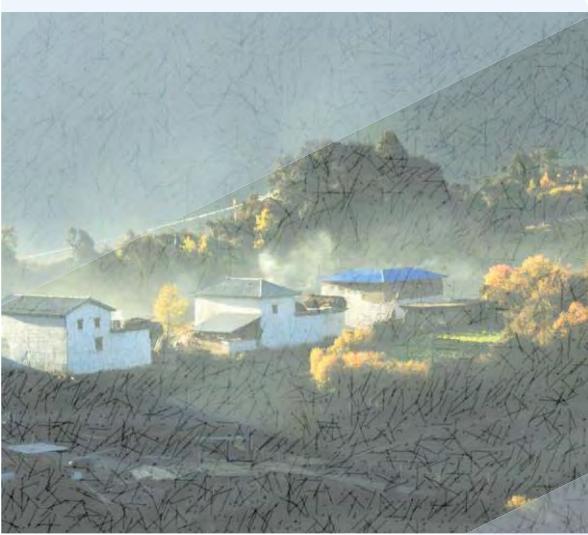
調査エリア：

四川：中国西部に位置し、8262万人、48.6㎢、“天府の国”、土地肥沃な農業省。農村観光産業は繁栄。

湖北：中国中部に位置し、5902万人、18.6㎢、荊楚の郷、農業面積が大きい。近年、農村観光産業は徐々に現れてくる。

浙江：中国東部に位置し、5657万人、10.4㎢、魚米の郷。経済水準はすべての省の最前線に位置し、特徴的な鎮や民宿などの農村観光サービス産業が最も人気。

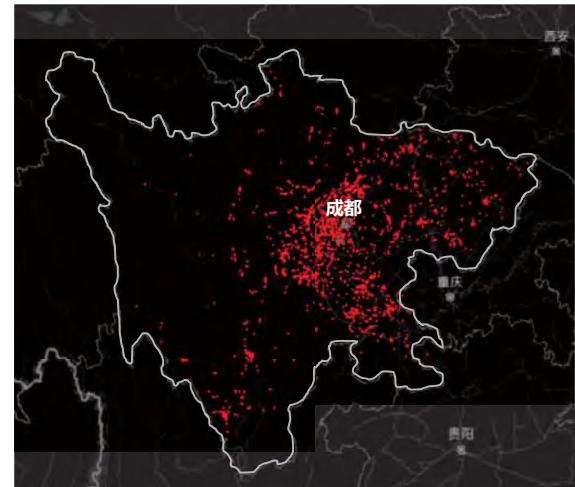




農家樂-四川 01

1. 時空間特性

2008 2012 2016 2018 →



四川省の“農家樂”的起源は早かったが、1980年代には初期の農家樂が成都市都江堰青城山、郫縣等地域に現れ、中国の農家樂の初期の模範となった。

四川省では、都市と農村計画、美しい村落、新農村建設などの様々な政策の推進によって、四川省の農村社会環境が大幅に強化された。

過去10年間の農村観光産業の台頭と、災害復興政策における農家樂産業の政策的傾向と財政的支援により、四川省の“農家樂”は急速に発展した。

2018年6月現在、四川省には郊外の“農家樂”が30000以上、郊外型“農家樂”が3088、1000以上の郊外の村が農村観光に従事し、10万戸以上の農村観光従業者が含まれている。800万人以上の農民は直接的または間接的に利益を受ける。

1. 時空間特性

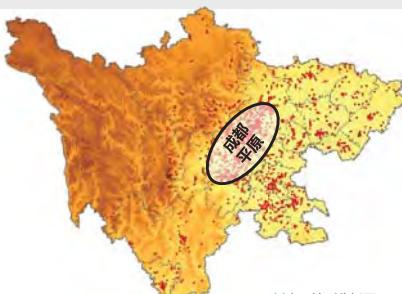
空間：塊状集中分布。

地理関連性：主に成都平原に集中し、以成都、綿陽、樂山、眉山など；

交通関連性：主要道路は3kmの緩衝地帯の44%を占め、10kmの緩衝地帯の81%を占めている。

景勝地関連性：農家の60%以上がAAAAおよびAAAAA級の景勝地に分布し、約30%が特徴的な村に分布し、約10%が非景観エリアに分布している。

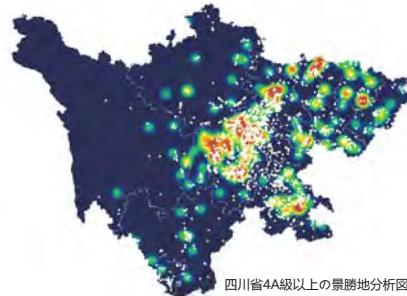
結論：四川省の郊外型“農家樂”は成都平原に塊状集中し、交通と景勝地の関連性が比較的重要。



四川省の地形分析図



四川省主要道路の空間分析図



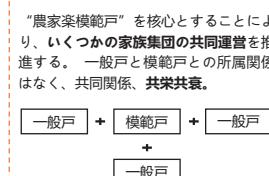
四川省4A級以上の景勝地分析図

2. 運営モード

集団運営、政府主導運営、合資運営

調査によると、現在の四川省の郊外型“農家樂”は、独立した単一農家自営業から、集団運営、政府主導運営、合資運営などの複数のモードが共存する開発パターンに変化している。

集団運営

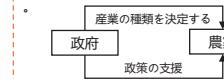


彭州市小魚洞鎮冷水魚農家樂



政府主導運営

政府は統一計画し、産業の種類を決定し、農家を集めて“農家樂”を運営する。同時に、政府は“農家樂”を運営する農家に政策の傾きと財政的支援を提供する。



成都市錦江区三聖鄉觀光農家樂



合資運営

政府が先導し、専門会社が資金を提供する。農家は土地管理権や資本を取って“農家樂”的運営に参加する。



成都市西江月リゾート



3. 開発の特徴

政策主導の新しい経済形態の開発結果

四川省は中国で郊外型“農家楽”を発展させた最初の省であり、“農家楽”と農村観光の面でも最大の省。それは特徴的な産業クラスターを形成し、四川省の経済の重要な部分となっている。

調査では、このような“農家楽”的急速な発展は様々な政策の支援から来ていることが分かった。2000年以来、四川省は毎年、農業観光の発展を加速させるという政策を提出する。**四川省における郊外型“農家楽”的発展は、様々な政策によってもたらされる新しい経済形態の変容と異常な著しい成果であるといえる。**

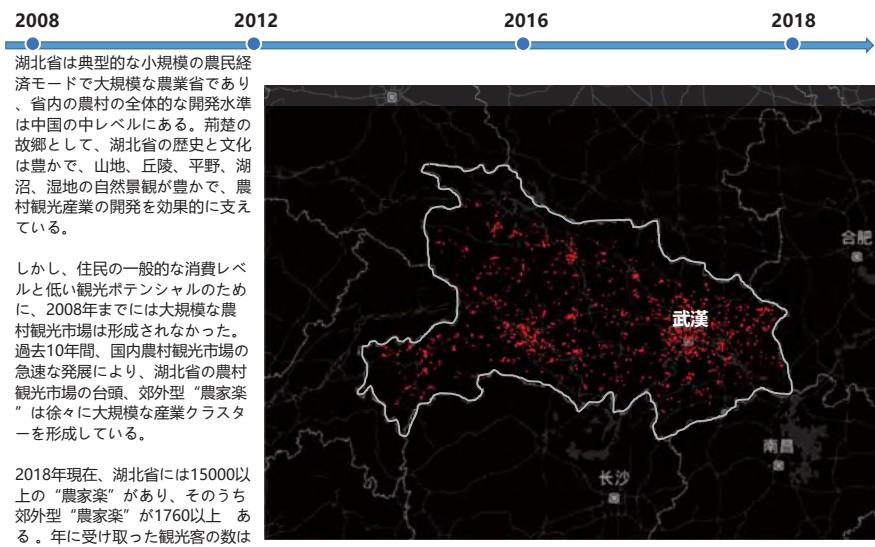
特に汶川の農村部は、災害後の安置、復興政策の中に、**観光開発**、“農家楽”などの産業政策の積極的な推進、関連する**財政、税制、インフラ整備などの支援政策**を提言している。したがって、震災前の既存の農村観光に基づいて、四川西部の林盤、丘陵、平野の地理的景観と相まって、農村観光開発動向に合致し、郊外型“農家楽”産業クラスターを形成する。



02 農家樂-湖北



1. 時空間特性



1. 時空間特性

空間：ポイント、グループ集中分布。

地理関連性：主に2つのグループを形成している、1つは武汉市の都市圏に依存する武漢グループ、もう1つは三峡観光に依存する宜昌グループ。

交通関連性：主要道路は3kmの緩衝地帯の65%を占め、10kmの緩衝地帯の91%を占めている。

景勝地関連性：農家の約50%はAAAAおよびAAAAA級の景勝地周辺に分布している。

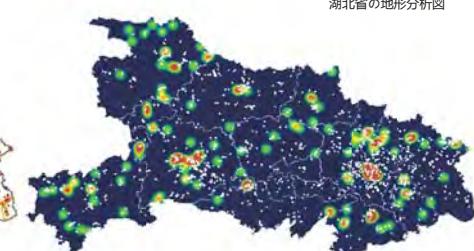
結論：湖北省の郊外型“農家楽”は、ポイント、グループ集中分布の特徴を持ち、交通関連性が特に重要で、景勝地関連性は一般的。



湖北省の地形分析図



湖北省主要道路の空間分析図



湖北省4A級以上の景勝地分析図

2. 運営モード

主に農家自営業で、合資運営、市場運営が徐々に台頭

湖北省の初期の農村観光市場は開放で、郊外型“農家樂”は遅く始まった。初期の形態は、農村のレストラン、コンビニなどの小さな農村サービスセンター。

その後、観光市場の台頭に伴い、農村部のサービスセンターの機能は徐々に強化されているが、また主に小規模農家自営業で、多機能の近代的な“農家樂”を形成し、現在湖北省の最も重要な農家樂モードになる。

典型的なケース：宜昌三峡農家樂、恩施五峰山農家樂等

近年、社会資本が農村観光市場に参入したことで、湖北省では“企業+農家”や“専門協同社+農家”などの合資運営が徐々に出現している。典型的なケースは武漢市新洲区巴徐村徐治場。



宜昌市三峡農家樂



武漢市新洲区巴徐村徐治場

3. 開発の特徴

伝統的な農村生活サービス産業の繰り返しの結果

湖北省の郊外型“農家樂”は、中国の中部農村地域における農村生活サービス産業の典型的なケースで、伝統的な農村生活サービス産業の繰り返しの発展過程を表し、地震災害や政策変更などの強い外的要因の影響を受けず、伝統的な産業の更新レートを維持している。20年以上の発展途上で、湖北省の郊外型“農家樂”は個人経営から集団経営に変わり、産業部門は単一機能から複合機能に変わり、徐々に大規模な産業クラスターを形成し、伝統的な農村生活サービス産業の繰り返しの結果である。



1. 時空間特性

2008: クラスタータイプ

2012: 蓄延化

2016: 規模化

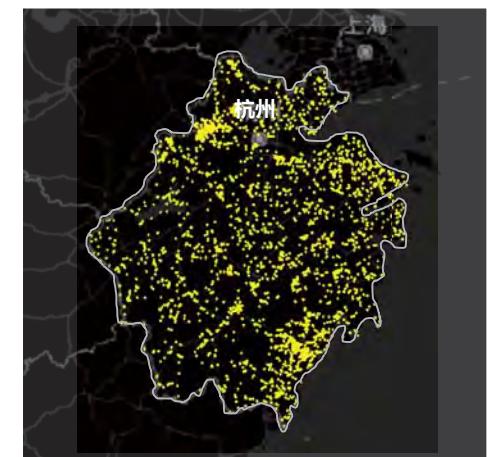
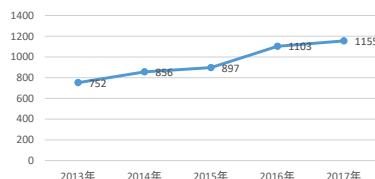
2018: ネットワーク化

浙江省の“農家樂”は1990年頃から始まった。省の経済水準の漸進的な拡大に伴い、中国の“農家樂”市場で最も人気のある省となっている。

2017年の時点では、浙江省は1155の農家樂の村、2328の特徴的な場所、20463戸農家、16.8万の従業者、45.4万人が雇用される。3.4億人の観光客を接待し、総営業利益は353.8億元。

2013年以来、402の新しい農家樂が追加され、年間平均成長率は11.58%となっている。

旅館村（個）



農家樂-浙江

03



1. 時空間特性

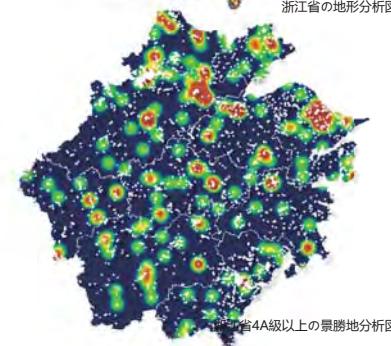
空間: ネットワークのような均一分布

地理関連性: 安吉の丘陵地域を除いて、他の地域の平原の分布密度は高く、

交通関連性: 主要道路は3kmの緩衝地帯の30%を占め、10kmの緩衝地帯の45%を占めている。

景勝地関連性: 約30%は4Aと5Aの景勝地の近くにあり、残りは特徴的な鎮や田園複合体など新農村観光スポットに依存している；

結論: 浙江省の郊外型“農家楽”は、ネットワークのような均一分布を持ち、道路と景勝地の関連性は重要ではない。



2. 運営モード

政府の支援、市場運営、民間企業共同運営

調査結果によると、浙江省の現在の郊外型“農家楽”は3.0-4.0の開発段階に進出し、“農家楽”モードも初期の自営業、集団的な共同経営から“コミュニティ+企業+農家”モデルに移行している。政府が支援し、農村観光市場への社会企業を導入し、村人たちと共に“農家楽”を運営する。具体的なモードは次のとおり。

“賃借または全体賃借”運営モード

村の人たちは自分の家や庭を会社に借り、村委員会の統一計画で全体の改修を行い、それを個々の経営者に借りた。

+

政府が統一計画で、一つの会社を指定し、農家樂観光を集中して開発し、企業が合意された比率に従って村人に配当を支払う

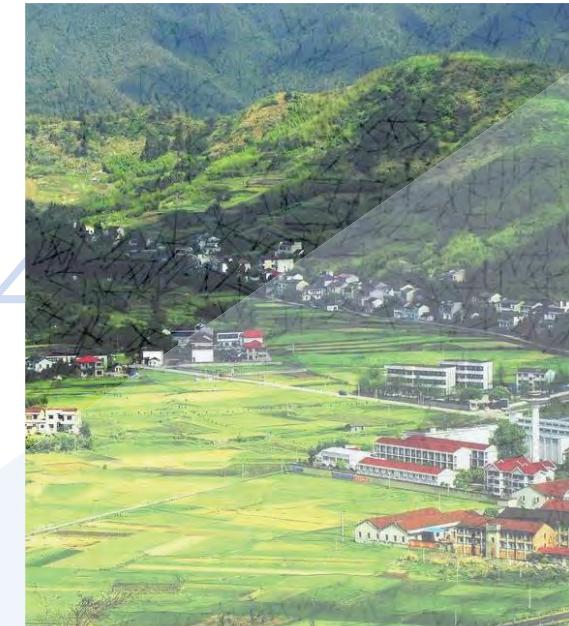
所有権と管理権を分離し、企業の利点を十分に發揮し、それにより大きな経済的利益をもたらす

3. 開発の特徴

	運営モード	規模布局	産業タイプ	施設環境	
1990 萌芽期	家庭自営業モード	小規模散乱分布	主に農業景觀と農村景觀を観賞する	施設が不十分で、道路への依存度が高い	
1998 成長期	集団経営、政府主導経営、合資経営	規模拡大集中分布	主に農業生産活動を体験する	施設の改善、道路や観光スポットへの依存度が高い	
2005 向上期	集団経営、政府主導経営、合資経営	規模拡大ネットワーク分布	主に体験型農村統合観光	施設が徐々に改善され、道路や観光スポットへの依存度が減少する。	
2016 転換期	市場運営、民間企業共同運営	規模化ネットワーク均一分布	新農業、近代農業、民宿経済へ転換する	完全な施設、道路や観光スポットへの依存度が低い	
2018					

浙江省の郊外型“農家楽”は急速な都市化の進展に伴う農村の形態調整の結果

新しい地理経済差異



新しい地理経済

地理経済: Geo-Economics

それは1990年にアメリカのエコノミスト、エドワード・ルトゥーウィーによって『地政学から地理経済:競合論理、貿易法則』に最初に提案された。彼は、地理経済学には国際的および地域的な次元が含まれていると信じている。

国際的な地理経済: 国際関係における経済発展と経済規模の時間的・空間的関係、分布と運営の仕組みと運営軌道。

地域的な地理経済: 単一の国の異なる地域間に存在し、地理的因素によって経済的関係が異なる。

主な要素: 地理的要因——地理的位置、天然資源



新しい地理経済: New Geo-Economics

中国にとって、国際関係の間に存在する地理経済差異は、中国の東部、中部、西部の地域間にも存在する。東部、中部、西部の地理的位置、天然資源、景観環境には大きな違いがあり、競争的な経済産業構造を形成するために特別な地域部門や都市集積に依存している。

これに基づいて、新しい地理経済産業の形成: すなわち、独特的の地理的位置、天然資源、景観環境によって形成された地域経済の形態、主に観光業およびサービス業、“農家楽”も含まれる。



“農家楽”の開発

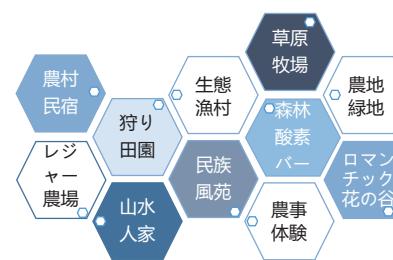
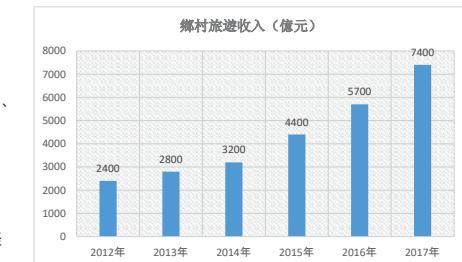
郊外型“農家楽”：典型的な新しい地理経済形態

郊外型“農家楽”は中国の新しい経済形態となっており、地理経済差異に伴い、新しい地理経済形態が現れ、新しい地理経済の特徴になる。

サービス主体: 農村住民

消費主体: 都市住民と観光客

運営モード: 家庭自営業、集団経営、政府経営、合資経営、市場経営など。



新しい地理経済差異

四川省、湖北省、浙江省の郊外型“農家楽”的時空間特性、運営モード、開発の特徴を総合的な比較すると：国際関係の間に存在する地理経済差異は、三省の間にも存在し、郊外型“農家楽”は新しい地理経済形態として地理的に大きな違いがあり、この違いは地理的、生態的、社会的環境の違いによるものである。

	空間特性	運営モード	開発の特徴	影響
	空間レイアウト	交通関連性	景勝地関連性	
四川	ネットワーク均一分布	やや高い	高い	集団運営、政府主導運営、合資経営など多様なモード 政策による新しい経済形態の変容と発展の著しい成果 農村観光サービスの促進、
湖北	ポイント集中分布	高い	一般的	主に家庭自営業 伝統的な農村生活サービス産業の繰り返しの結果 農村経済の変革と発展の促進、
浙江	塊状集中分布	低い	低い	市場操作による規模化運営 急速な都市化の進展に伴う農村の形態調整の結果 農村施設のレベルアップ

四川: 政策と資本によって、郊外型“農家楽”は飛躍的な発展を迎え、高水準の3.0-4.0時代への転換発展を促した。

湖北: 長期間外的な影響を受けておらず、安定しており、遅く、自己組織化した自由な成長を維持しているが、まだ2.0~3.0時代の成長期にある。

浙江: 急速な都市化の地域環境で、地域の経済と産業の変化に対応し、適応的に事業構造を調整し、迅速に“農家楽”4.0時代に入った。

ありがとうございました!

